

あうみネット



BIWA CHAN

淡海の市民活動・ネットワーク情報誌
Collaboration Paper for Voluntary Network in Ohmi

●発行日/2008年8月1日 ●発行所/(財)淡海文化振興財団

No.
64
2008年
8・9月号

CONTENTS

特集●淡海とびっくす ②

市民活動と子どもたちの活動 子どもの力を引き出すおとなの関わり方



ええやんか!おうみ多文化 交流フェスティバルinくさつ

日時●10月5日(日)10:00~16:00

場所●草津小学校グラウンド

入場料●無料

連絡先●SHIPS多文化共生支援センター

TEL:077-561-5110

現在、滋賀県には約3万人もの外国籍の方が住んでいます。世界約80カ国からやってきた様々な国籍、人種、民族が私たち



と共に暮らしています。日本人も外国人も、大人も子どもも、みんな一緒に一日中踊ったり、遊んだり、楽しく過ごす。それが「おうみ多文化交流フェスティバル」です!

秋の夜長を楽しむ夕べ

日時●9月27日(土)14:00~21:00

場所●森林公園「くつきの森」やまね館

入場料●座談会・夕食会:2500円

音楽会:1000円

座談会・夕食会・音楽会:3000円

連絡先●NPO法人麻生里山センター

TEL.0740-38-8099

座談会では、子どもへ引き継ぐ明るい未来の森林づくりのアイデアを出し合います。朽木の里山夕食会をはさんで、地元の太鼓とジャズ演奏を披露。朽木の夜空の下で秋の夜長と一緒に楽しみませんか。



■NPOさぼーとぼけっと ①

3年先の自分たちをデザインしよう
~具体的な計画づくりのために~

■市民団体活動紹介 ⑤

NPOのわっ

- アミーゴス・ド・ブラジル
- 特定非営利活動法人とよさとまちづくり委員会
- 特定非営利活動法人 瀬田川リパプレ隊

■おうみネット★ INFORMATION ⑦ 8月・9月

柄にもなくと友人に笑われるのですが、ことばとことばをつなぎ合わせて短詩をつくるのが好きです。突然、ふっと言葉が飛び出してくるときがあります。「ナイチンゲールと山野草」もそのひとつ。詩のタイトルに使える組み合わせ。虚飾を好まず自然体で与えられた環境と向き合う清楚な姿を想像したのでしょうか。

みなさんご存知のように、フローレンス・ナイチンゲールはクリミア戦争で白衣の天使として献身的な活躍をした看護婦です。毎晩、傷に苦しむ兵士を見回り「ランプの貴婦人」とも呼ばれていたようです。しかし、実際の彼女は、反骨精神で逆境を乗り越え、政府の政策にも影響を与えた社会変革者としての一面があります。

当時の女性としては珍しく外国語や哲学、数学、心理学、天文学と幅広く高度な教育を受け、イギリス上流階級出身でありながら、当時イメージの

悪い仕事と思われていた「看護婦」を専門職のレベルにまで高めました。派遣された病院での衛生状態を改善し院内死亡率を激減させたばかりでなく、帰国後はイギリスにおける看護学や統計学の基礎を築き、看護学校の設立や病院設計も行うという業績を90歳で永眠するまで積み重ねた人物です。幾多の困難を乗り越える彼女のしなやかさとしたたかさには到底及びませんが、毎年同じ時期に花咲く可憐な山野草のようにねばり強く、一歩一歩、歩き続けたいですね。

「市民活動」とかけて「おはじき」と解く
そのころは「色柄多様で面白い」
「市民活動」とかけて「舞台」と解く
そのころは「幕開けまでの仕込が大切」
「市民活動」とかけてなんと解く。
皆さんの答えは？

淡海ネットワークセンター事務局長 浅野 令子

ナイチンゲールと山野草

※クリミア戦争
1854年から1856年の間、クリミア半島(黒海の北岸)などを舞台として行われた戦争

NPO SUPPORT POCKET

あなたのNPO活動をサポートする情報をお届けします。

●NPOさぽーとぽけっと●

3年先の自分たちをデザインしよう! ～具体的な計画づくりのために～

おうみネット63号では「3年先の目標づくり」についてご紹介しました。運営メンバーで「3年後の夢」を語り合い、到達したい目標が見えてきたでしょうか。今回は、3年先の目標へ到達するための計画づくりのヒントをご紹介します。

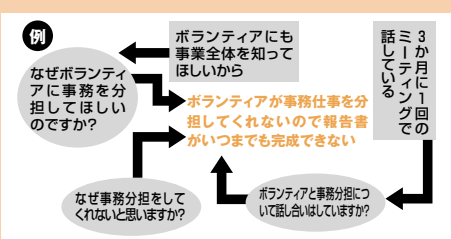
ヒント① 悩みから目標を見つけるワークをしよう

運営メンバーがそれぞれに持っている悩みから、目標を確認するワークを紹介します。

運営メンバーで、活動の中でそれぞれが感じる、かかわる人との悩みを書き出します。「何々が、何々していないので、何々できない」とB4以上の紙の真ん中に書き(下図)、書いた紙を隣へ順番に回し、全員が他の人の悩みへ「なぜ～なのですか?」という理由を問う質問を書いていきます。質問にさらに掘り下げて質問を付けていくのもいいですね。

活動にかかわる人とは、①事業を行うことでサービスを受けて満足してほしい対象者、②活動に参加してやる気や満足を感じてほしいボランティア、③活動の成果が上がることで満足を得る支援者や協力者です。次に、各自が質問に対して回答を書きます。各自が違う視点からの質問に答えることで、解決のヒントを見つけることができます。その後、それぞれの質問と回答を一人ずつ発表して共有します。

関係者との課題と回答を<表1>のように整理し、みんなで対策と理想の姿を考えます。自分たちが活動をととして、目指している地域や人々の姿を確認することができます。



<表1>

	課題	回答	対策	理想の姿
対象者				
ボランティア				
支援者・協力者				

ヒント② 1年毎の成果目標とプロセス目標を作ろう

ここでは、「目標」を「成果目標」と「プロセス目標」の二つに分けて考えましょう。成果目標とは、事業としての成果を表す数値目標です。例えば、イベントの参加人数や開催回数など、対象者向けに設定され、数字などで表せるものです。プロセス目標とは、対象者やボランティア、支援者の方で達成したい目標で、活動にかかわる人がどういう状態になってほしいかを具体的に設定します。例えば、ボランティアが積極的に事業のアイデアを出すようになること、支援者同士のつながりで新たな支援者を増やすことなどです。かかわる人々の「理想の姿」がプロセス目標にあたるでしょう。成果目標とプロセス目標を併せて考えていくことが大切です。二つの目標を考えるのは簡単ではないと思いますが、少しずつ話し合いを続けてみてください。

3年計画を立てた後は、その計画を関係者にも知ってもらい、意見や評価を聞いてみましょう。3年後に目指すところを知ってもらう機会にもなります。

●評価のポイント

- ・その事業や目標が共感できるものか (共感性)
- ・ボランティアなどが参加しやすい仕組みになっているか (参加性)
- ・この3年の取り組みで関係者に変革が生まれるか (変革性)

3年先の目標を目指して、実行段階では、次のような具体的なステップを考えていきましょう。1年目は実態調査など現状把握から道具作りを、2年目はそれを使ってパイロット的事业を、3年目はこれらの経験などを整理して地域や対象者を広げていく事業を、「ホップ・ステップ・ジャンプ」で考えてみてください。

「やる気」= 「成功の確率×成功の魅力」

魅力があり、成功の確率の高い目標を立て、活動を広げてください。

市民活動と子どもたちの活動 子どもの力を引き出すおとなの関わり方



浜田進士さん●プロフィール
子どもの人権ファシリテーター（促進役）。聖和大学人文学部准教授。専門：子どもの支援学、人権教育（子どもの権利学習）、国際理解教育、開発教育、自治体とNPOの協働による子ども施策。NPO法人子どもの権利条約総合研究所研究員。共著または分担執筆に『アジアの子どもと日本（明石書店2001年）』『イラスト版子どもの権利子どもとマスターする50の権利学習』（合同出版2006年）などがある。

家庭や地域で子ども（※）たちの役割はありますか？地域づくりやまちづくりに、子どもは関わっていますか？子どもは学校だけでなく、家庭での役割、地域とのつながり、仲間との遊びなどから、多くのことを学び自分を見つけ、成長していきます。

どんな市民活動も、子どもの活動の場を提供し、子どもたちとともに活動することで、新しい視点でまちや地域を見ていくことが出来るのではないのでしょうか。

今回は、子どもの人権ファシリテーターとして活躍されている浜田進士さんにお話をお聞きました。また、滋賀県内外の子どもたちの活動もご紹介します。

※国連の「子ども権利条約」では、18歳未満を「子ども」と定義しています。

■これまで浜田さんが出会ってこられた子どもの活動で、どんな活動をしているグループが印象に残っていますか。

浜田 箕面市でスプラッシュパワーステージというイベントをした中高生の子どもたちです。当時、箕面の公民館では踊り場や玄関でストリートダンスやギターの練習をしている子どもが集まっていました。そこで、この子たちとどう関わると話したい、「発表できる場を用意するから、仲間を集めて準備してくれないか」ということから始めました。何回か会合をしている中で驚いたのが、おとなと彼らのコミュニケーションスキルの違いでした。例えば、会議中でも携帯電話を持ち出して、すぐにチラシ作りのメンバー等をメーリングリストから集めて進めていきます。ストリートダンスや路上ライブをや

っている子どもたちには固定ファンが大勢いるということも知りました。彼らの口コミで五百人ぐらいのお客さんが来ました。子どもなりにこのステージに真剣に向かい、子ども然りのネットトワークを持って動いていくことに驚かされました。

■場を提供することで、子どもたちが力を発揮したという一つの形ですね。

浜田 そうです。もう一つは京都の南青少年センターです。ここには学校に行きたいけど行けないといった不登校の子どもたちがロビーに来ていました。センターではその子たちを積極的に受け入れようと、本を読んだり、ゲームをしたり、お湯を沸かしてラーメンを作ったりするようなフリースペースを作りました。フリースペースが荒れた時もあり、問題もありましたが、職員が、子どもたちと一緒にかまどを作って食事をしようと呼びかけた「かまどプロジェクト」（※1）や「サンタクロースプロジェクト」（※2）に巻き込んでいくことで、そこが本場に子どもたちにとって大事な場所となっていました。そうなる上の子から下の子にルールを作っていく動きが出

てきて、自分たちのルールを守るようになりました。

■「スプラッシュパワーステージ」や「かまどプロジェクト」「サンタクロースプロジェクト」は子どもたちが全て企画して実行しているのでしょうか。

浜田 いいえ。子どもとおとなが何かをやっていくときには枠組みを決めてあげないと難しいと思います。例えばスプラッシュパワーステージの場合で言うと、会場取りからチラシのお金集めまでやりなさいと言われたら、子どもたちにはなかなかハードルが高かったと思います。

■市民活動やまちづくりにおいて、子どもたちが活動に参加することには、どんな意味があるのでしょうか。

浜田 『参加』することで、「気持ち」を聞いてもらえる権利、「気持ちと気持ちをつなぐ権利」「参加する権利」が子どもたちの心に自分の肯定感や人と向き合う力を育て、子ども自身による問題解決につながるのです。赤ちゃんを含め全ての子どもには力があります。その力が発揮できるかできないかは、その子どもを取

（次ページへ）

※1「かまどプロジェクト」：ブロックを横んで釜戸を作りご飯を作ってみんなで食事しながら話す場。 ※2「サンタクロースプロジェクト」：児童養護施設の子らにサンタの格好をしてプレゼントを配る企画。

り巻く関係とか環境だと思おうのです
が、『参加』はそういう関係とか環
境を変えていくきっかけになりま
す。「自分たちにはこんな力があつ
たのか」ということに、子どもたち
自身が気付くこと、おとなは「この
子にはこんな力があるんだ」という
気付きになると思うのです。

子どもは誰もが生まれた時から自
ら選んで、周りへ働きかけて関わっ
ていく存在なのです。それを大人は
気づいていないことが多いのです。
子どもたちがなぜお互いに関わり合
うのかというと、仲間の力が発揮さ
れるからです。『参加』というのは
おとなと子どもの関係というよりむ
しろ、仲間の中で参加ができた時に
子どもの中に力が出てくるのです。
だから『参加』は子どもの基本的な
権利であり、傷ついた子どもの問題
解決につながる。そして、子どもの
内なるエンパワーメントにつなが
り、仲間の中から力が発揮される機
会なんです。

■ いろいろな形で子どもたちの参加の
場があれば、子どもが力を発揮で
きるということですね。そこに関
わるおとなにとっては、子どもの
力の気付きの他にどんな意味があ

りますか。

浜田 おとなだけでアイデアが行き
詰まったときに、子どもからアイデ
アや元気をもらおうということだと思
います。おとなだけでは見えない部
分を子どもたちが見つけたり。子ど
もの言葉や視点がおとなの中に抱え
ている問題を教えてくれたり、間違
った判断を気づかせてくれます。子
どもと関わる上で大事なキーワード
はおとなが「対等感の欠如に気づく」
(※3)ということだと思っています。子
どもとおとなは絶対に対等にはなれ
ないし、対等ではないんです。です
から対等じゃないということに気づ
いているおとなが、最も子ども参加
の支援者になるんです。

■ おとなが子どもとの対等感の欠如
に気づいた後、子どもの力を引き



※3 「対等感の欠如に気づく」正面から見れば山でありMであ
りカモメであるが、見方を変えれば「3、W、膝小僧、おっば
い」に見える。(本当の意味でおとなと子どもの協働が出来て
いたら、おとなが気づかないアイデアもいっぱい出てくるが、
関係性に気付いていないと、子どもはおとなが答えて欲しい回
答を選んでしか答えようとしません)

出すにはどう関わっていったら
いのでしょうか。

浜田 場面場面によると思いますが、
「待つ」ことと「ノン・ジャッジメン
ト」の二つです。この二つは、おと
なが持っている、自分の中の課題や
子ども像を問いかけてきます。子ど
もはおとなをととてもよく見ています。
自分たちへの期待を感じると、そ
れに応えようとする。それは、おと
なは子どもを守り、子どもは守られ
る存在という関係があるからです。
子どもにとって、狭くもなく堅くも
ないちょうどいい保護の中では、の
びのびと成長ができるのですが、窮
屈な保護の中では、子どもたちは困
ってしまいます。この保護の大きさ
がなかなか難しい。百分百お互いが望
むものは無理かもしれませんが、お
互いに近づける範囲でやっていくこ
とが大事です。その一つの方法とし
て、雑談することが非常にいいので
す。京都の南青少年センターのかま
ど作りをきっかけにした「あたたか
いご飯と雑談」で子どもたちとの距
離感を縮めたように、お互いにリラ
ックスできる場とゆったりした時間
が子どもたちの力を引き出してけれ
るの始まりだと思います。

ミニ大阪 (NPO法人子ども盆栽)

社会は一人ひとりの仕事でできている。
「子どものまち」事業

「ミニ大阪」は、毎年5月5日に大阪府立青少年会館で行われている子どもによるまちづくりイベントです。小学1年生～高校3年生が参加し、自分たちのまちで、自分たちがやってみよう仕事を自分たちで考えて実施していきます。市役所や銀行、飲食店などの仕事を子どもたちが考え、新しいビジネスも作り出します。働くことを通じて、一人ひとりの仕事で社会が作られていることを学び、「あそび」の中から仲間とともに主体性や想像力を育みます。ドイツでは20年の歴史を持つ、夏休みに3週間開催される子どもによるまち「ミニミュンヘン」があります。各地に子どもたちによるまちが広がることで、未来を担う子どもの視点が活かされたまちづくりにつながるのではないのでしょうか。

フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

子どもだからこそできるんだ！
「Kids Can」が合言葉

子どもによる、子どものための国際協力団体として、18歳以下の子どもたちが参加しています。フリー・ザ・チルドレンは1995年に途上国の児童労働を知った、カナダのクレイグ少年(当時12歳)と仲間が始めました。世界中の子どもが心もからだも健康に育つことができ、夢や希望を実現できる社会を目指し、日本でも1999年より活動を始め、32の地域で子どもたちが支部を立ち上げています。児童労働を知るための勉強会を企画し、講演会や学校の文化祭で発表したり、資金を集めて途上国の子どもを支援する施設へ送るなどの活動をしています。

NPO法人子ども盆栽
TEL: 090-8484-9031 FAX: 06-4703-5190
URL: <http://www.bombsight.net/>

フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
TEL & FAX: 03-3835-0221 (留守番電話になっている場合があります)
E-mail: info@ftcj.com URL: <http://www.ftcj.com/>

子どもは滋賀の未来を創る

21世紀淡海子ども未来会議

10年目を迎える21世紀淡海子ども未来会議は、応募者から抽選で選ばれた小学4年生から中学3年生の50名が、1年間のプログラムを通して、よりよい滋賀県の未来に向けて子ども議会で提言をする活動です。子どもの視点や思いをおとなが受けとめ、県政に活かしていこうという事業です。



子ども議員は、県内各地域でフィールドワークをし、地元の人や観光客から滋賀の魅力について話を聞き、それをお互いに共有する地域会議を何度か経験します。この地域会議で誰とでも話し、聞くコミュニケーション力と考えを伝える力が育ちます。そして、「10年後の滋賀県」をテーマに夢を描きます。この夢を提言とするために、高校生以上のサポーターが多数寄り添い、夢を突き詰めて考える作業に入ります。

お話を聞いた島川武治さんは、「環境レイカーズ」を主宰し、子ども未来会議の年間プログラム作りサポーターとして活動してこられました。「子どもたちには、何故そうしたいのか、実現するためには何が必要かを問いかけて。提言としてまとめるためには子どもが現在の状況も調べます。提言は、知事はじめ県の関係者に提案するので、責任もあります。子どもには、いつも『真剣』に取り組もうと言っています。サポーターには『待つ』ことの大切さと、子ども自身が『見つける』ことの大切さを言っています。その中で、サポーター自身も子どもとの関わりを学びます。自分の思いに真剣に関わる仲間とおとなの中で、子どもは自己肯定感を持ちます。これは10年後のおとなを育てる事業であり、滋賀県の未来を創造する活動なんです。これからの滋賀を創る関係でも、学び合う関係においても、いつも子どもはおとなのパートナーです」。

滋賀県健康福祉部 子ども・青少年局
TEL : 077-528-3557 FAX : 077-528-4854

環境レイカーズ
TEL & FAX : 0748-37-4567 URL : <http://www.kanyolakers.org>

子どもには『一対一力』をつけてほしい。

大津市子ども会ジュニアリーダークラブKIDS

地域の子どもの会活動は「子どもによる、子どものための子ども会」として、子どもたちが計画する活動を子どもたち自身が実施していく活動だと言われています。そこで子どもたちの希望や思いをまとめたり、形にしたり、おとなに伝えるジュニアリーダーの存在は大きなものがあります。

ジュニアリーダーは夏休みに開催される、ジュニアリーダー研修から育っていきます。小学5、6年生が参加し、中学生以上がリーダーとして企画や運営をします。今年のテーマは「ワンプロミス」。研修参加者もリーダーとして班をまとめ運営していく中高生も、一人ひとりが「みんなが笑顔でいられる班」など思いを表す約束を決めます。

中学時代から公民館のレクリエーションサークルで子どもの活動に関わり、19歳でジュニアリーダークラブKIDSを立ち上げ、ジュニアリーダー育成に関わる小田勝己さんにジュニアリーダーで育つ子どもたちとおとなの関わり方について聞きました。「研修では、リーダーが班をまとめ、運営全般もしていきます。リーダーになると苦しい場面も多い。だから学びも多いのです。数字や形にならない彼らの苦しみや成長を、しっかり見ているよと伝え、評価します。それが自信や挑戦する力となるのです。子どもには必ず名前を呼ぶかけます。子ども同士でも、おとなに対しても、一対一で向きあえる『一対一力』を持つ人になってほしいと思っています。このジュニアリーダーで培った力は地域でも活かしていけると思います。地域の歴史や社会観の影響を受けて生きていることに気づくことで、自分を見つかる手がかりになります。そういう地域にとって大事な人を、育てていると思っています」。



ジュニアリーダーとは、地域の子どもの会活動の支援などのボランティア活動を行う中学生・高校生です。

大津市子ども会育成連合会 大津市生涯学習センター内
TEL : 077-511-6215 FAX : 077-528-2033

滋賀県子ども会連合会
URL : <http://www.kodomokai.gr.jp/ayukko/>

見守りあう場で育つ親子

彦根プレーパーク

「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに、彦根市野田山町内で里山を解放している彦根プレーパーク(冒険遊び場)。8年目となり、ここで成長した子どもが小さな子に遊びを伝授しています。学生時代からずっと遊びのお兄さんをつくる学童指導員、7年間参加している親子、遠くから車で参加している家族など、仲間との出会い、居心地の良さが魅力と集まっています。

彦根市で保育士を退職後、幼児の遊び紹介と母親交流の場「のびのび教室」を公民館で始め、さらに彦根プレーパークを誕生させた中村信子さんは当時を振り返り、「子育てが簡素化されてきていると感じていました。小さな時に親と子がしっかり向き合えると、子どもの中にどんな苦難にも向かって行ける土台ができます。子どもたちにはもっと自由な時間、空間でとことん遊びさせてほしい。親子が自然の中で感動し、家では見せない子どもの顔を見つめる場、親同士の交流の場として始めました」と語ります。

「子どもは見よう見まねで学びます。初めての子は山と広場を見て、何にも無い!と言いますが、子どもたちが山に入り、崖から降り、木に登って遊んでいるのを見て、だんだん自由に遊び始め、お互いに教え始めます。お母さんには、「親は出しゃばらない」「影ながら見守る」「危ない時だけちょっとアドバイス」「小さなケガは次のケガを防ぐ」と言っています。そして、「いつもお客様ではだめ。お互いに自分たちで楽しい場所にしていかないと」と。休憩場所を準備し、参加費集めなど、当番制で親が運営しています。年上の子が年下の子を見守り、親が子どもを見守り、自然と周囲の人がみんなを見守る。そんな中で子どもも親も育っていくのです」。



彦根プレーパーク
連絡先: 猪飼 理恵
TEL : 090-6376-9045
E-mail : hikoneplaypark@hotmail.co.jp
ブログ : <http://hikoneplaypark.shiga-saku.net>

「こどもメガネ」をかけてみよう。

こどもに関わる大人たちの交流会

平成20年3月、「こどもに関わる大人たちの交流会」が近江富士花緑公園で行われ、環境学習の場で子どもたちに関わる人、子育てクラブなどの主宰者、公民館や教育関係者など約50名が集まりました。

「子どもに関わる上での、自分の立ち位置を探したい。押しつけてない、子どもの思いや力を引き出す関わり方を知りたい。さらに、子どもと関わる他分野の人と繋がりたい。そんな思いからこの交流会が始まりました」と、実行委員の一人で、琵琶湖博物館で里山体験教室を担当する西村知記さんは話してくれました。

実行委員には、環境教育ミーティングや、昨年近江富士花緑公園で行われた里山フォーラムで出会った仲間、市民の環境学習活動をしている人、子どもの遊び場作りをしている人などが集まりました。「みんなそれぞれに子どもと関わっていますが、関わり方にこれでいいかと不安もありました。他分野の人と『こどもに関わる』をテーマに集まり、子どもとの関わり方について繋がりを、共有したい、学びあいたいと思っていました。交流会のテーマは、かけると子どもの視点でものが見える『こどもメガネ』でした。子どもの目



線に立てているか?子どもとともに歩めているか?という自分たちへの問いもあったと思います。今回の交流会についても話し合っています。この交流会では、さまざまな分野、団体、人とのつながりが広がる中で、一人ひとりが子どもとの関わり方についていける「場」を作っていきたいと思っています」。

こどもに関わる大人たちの交流会
URL:http://www.ohmitetudo.co.jp/karyoku/info/08/3_1.html

※「こどもに関わる大人たちの交流会」は淡海ネットワークセンターの「市民活動団体ネットワーク促進事業」助成で実施されました。

NPOの

輪

わっ WA

和

話

地域や社会を良くしていきたいと
がんばっている市民活動・NPOを紹介します。
興味を持たれた団体に連絡してみませんか？

おうみネットを一緒につくりませんか？

おうみネットサポーターを随時募集しています。
興味のある方はセンターまでお問い合わせください。

このコーナーは「おうみネット」発行をサポートする「おうみネットサポーター」が市民活動団体・NPOの情報提供から取材・執筆までを行っています。



話

●アミーゴス・ド・ブラジルでは、日本文化との共生をめざして、折々の日本行事を積極的に取り入れていきます。桃の節句にはおひな様を作りました。

輪



●委員会のおにり
ち会古たおにり
ま員古たおにり
と委であむん変
より修「一さん
よく改かほえま
とつづの家かや生
ました。

和



●瀬田川リバレ隊で行ったヨシと水質浄化について学習会とヨシ笛コンサート。

「わたしたちのねがいは、「みんなともだち!!」
地域(日本人たち)との、共生を目指しています。」

今年、ブラジル移民百周年。今、日本ががんばっておられるブラジル人のグループを紹介します。長浜市で、日本語とポルトガル語(母国語)の学習支援を行っているグループ、それが「アミーゴス・ド・ブラジル」です。

「ことば」という共通の悩みを持つブラジル人同士が、学習支援活動を通じて『なかよく助け合っている!』という想いで、三年前に結成されました。そして、「みんなともだち!」「アミーゴス」を合言葉に、地域(日本人)との共生をめざしています。活動は、第三以外の毎

土曜日の午後七時三十分から九時までの間、長浜市立長浜公民館でおこなわれます。スタッフや参加者は、現在、約三十名。取材した日も、小学生から高校生までの子どもとともに保護者など二十数名があつまりました。保護者も生徒の一員です。親子が机をならべ、一心不乱に日本語の漢字の書き取りにいそしむ姿には、



●学習風景。机に向かうと一心不乱。私語は一切聞こえません。

胸をうたれます。その甲斐あって、昨年は、親子で日本語能力試験に合格するというすばらしいニュースもありました。「グループの運営はみんな」がモットー。今年の代表は酒井エディナ明美さんです。日系三世の方で、十六年前に来日し、現在、市教育委員会の教育相談員としてみんなのお世話をされています。「子どもたちが真に自立していくため、高校・大学進学に向けた学力向上支援を目指したい。」と、将来への夢を熱く語ってくれました。「アテ・ア・プロスイマ」(次、会う日まで)。別れ際の手のぬくもりに、百年の時空を越えた熱いものを感しました。(おうみネットサポーター 荒木威)

アミーゴス・ド・ブラジル

代表●酒井エディナ明美
設立●2005年
会員(スタッフ・参加者)●30名
活動(開催)日時・場所●第3以外の毎土曜日、午後7時30分から同9時まで、長浜市立長浜公民館にて(連絡先は淡海ネットワークセンターへお問い合わせください)



●学習は、マン・ツー・マンで…。組み合わせは、他人同士が原則。和やかななかにも真実さが伝わります。

近江商人の屋敷で住民・学生・行政 三方よしのまちづくり

犬上郡豊郷町には近江商人の名残で蔵や古民家が多く残されています。

とよさとまちづくり委員会は、町からの若者の流出による不安から、自分たちの町は自分たちで何とかしようとして、二十代の在住在勤者を中心に発足しました。集まりを重ねる中で、一つの空き蔵が壊されると聞き、大阪在住の持ち主から借り、一年かけて手作業で改修し、拠点となる蔵を完成させたことをきっかけに、地域の空き家や空き蔵の改修を始めました。滋賀県立大学の学生と協力し、今まで八件を改修し、学生の住居や福祉施設、



●学生と地域住民とのふれあい「おやえさん」にて

地域住民のコミュニティスペースなどとして利用できるように活動しています。

「磯部邸」と呼ばれる家は、学生が改修し、一階は地域住民のコミュニティスペース、二階に学生が住んでいます。庭の手づくりにかまどの屋根にはソーラーパネルが付き、畑に利用する雨水を集める樽があり、消費電力が非常に少ないLEDライトやコンポストトイレを設置するなど、環境にやさしい家になっています。

金・土営業の「BARタルタルガ」は、蔵を学生が改修したおしゃれなバーです。学生が運営を行っており、地域の方が集う場所となっています。地域交流の場「おやえさん」は火・木・土に近所の方の協力で開いています。核家族が増える中、お年寄りや子どもたちが一緒にカラムをしたり、話をしたりできる貴重な空間となっています。

学生にとっては地域住民の方と協力し改修の仕方を学び実践するいい機会になり、地域住民にとっては安心して暮らせるようになり、みんなにとっていいことであるから、活動が活発に、継続されているのだと感じました。



●磯部邸改修の様子

特定非営利活動法人
とよさとまちづくり委員会
代表●北川稔彦
設立●2000年(2004年法人認証)
会員●30人
連絡先●豊郷町安食西285
TEL/FAX: 0749-20-1875
e-mail: npo.toyo-machi@hera.eonet.ne.jp
URL: http://www.eonet.ne.jp/toyo-machi/

びわ湖・瀬田川を美しく、 楽しい水辺に

瀬田川改修百周年に当たる二〇〇〇年の秋、琵琶湖畔で「瀬田川リバプレ隊」は産声を上げました。活動は、法人となった二〇〇三年初春からさらに広がり、「琵琶湖・瀬田川の恩恵を心に刻み、次代の子どもたちに語り継ぎ、市民による誇るべき「瀬田川づくり」を広げ、美しく、楽しい水辺にしたい。そして、流域の人々の繋ぎ手になりたい。」という願いのもとに発展してきました。

現在、活動は、主に「啓発活動・保全活動・ネットワークづくり」を中心に展開されています。

「啓発活動」は、メンバーの特技を活かした木工教室等の出前講座や観光船「一番丸」での湖上セミナーを開催。「環境保全活動」は、毎月二十五日に実施されている高橋川の清掃活動と年一回のヨシ刈りとヨシ笛コンサート、外来魚駆除活動。そして瀬田川のゴミ回収と植物観察会。「ネットワークづくり」は、水源から河川、湖沼などで活動している団体に呼びかけて河川を愛する市民会議を開催。この市民会議は河川協会からの委託事業で、本年度四回目を迎えます。活動は、深く、広く、地域になくはならない団体へと成長しています。

事務局の後藤さんは、活動への想いを、「一七〇〇万人の暮らしを潤す『近畿の



●1月下旬に瀬田川左岸のヨシ刈りを130名の参加者で実施

水辺」琵琶湖と下流域を結ぶ瀬田川は、洪水や浸水で人々を苦しめてきた川でもある。自然の驚異とそれに立ち向かう先人の熱意・英知のすばらしさや自然と人間との共生の尊さを今に伝えている川であり、この素晴らしい瀬田川の歴史と文化を京阪神の方々にも知っていただき、水への思いを共有したい。」と、熱く語っていただきました。

(おうみネットサポーター 井阪尚司)



●秋、琵琶湖の水源をたどる研修会を実施

特定非営利活動法人
瀬田川リバプレ隊
代表●富岡親憲
設立●2000年(2003年法人認証)
会員●40人
連絡先●大津市瀬田5丁目27-2
TEL: 077-543-0752 (後藤三郎)
URL: http://www.animateur.co.jp/riverplay/



おうみ未来塾活動発表会

おうみ未来塾は、地域の課題解決に取り組む「地域プロデューサー」を目指して、滋賀県のような地域でまちづくりなど市民による活動を学び、2年目にはグループ活動としてフィールドに入り、地域の課題に取り組めます。

今回、2年目を迎える9期生のグループ活動発表会を行います。地域でどんな課題を見つけ、どんな活動を始め、進めているのでしょうか。地域づくりや市民活動を進めるヒントを見つけに来てください。

- ◆日時：9月23日（火・祝）13：00～16：30
- ◆場所：県民交流センター（ピアザ淡海）207会議室

第6回（2008年）

「おうみNPO活動基金助成事業」 中間発表会開催のお知らせ

第6回おうみNPO活動基金助成事業の中間発表会を下記により開催します。採択された15団体が、取り組み状況や課題などを発表し、基金運営委員からアドバイスを受けます。公開で開催しますので、第7回の応募を検討されている皆さんもぜひお越しください。

- ◆日時：9月27日（土）午後
- ◆場所：県民交流センター（ピアザ淡海）204会議室

8月の市民活動ふらっとルーム 時間変更のお知らせ

市民活動団体・NPOのミーティングや交流のスペースとして、ふらっとルームをご利用いただいておりますが、8月は下記のご利用時間が変わります。みなさまのご利用をお待ちしております。

※ご予約は1か月前からできますので、ふらっとルームのホワイトボードと予約ノートに書き込んでご利用ください。

- ◆変更前の時間帯
8月13日（水）9：00～21：00
- ▼
- ◆変更後の時間帯
8月13日（水）9：00～17：00

市民活動団体のネットワーキング “はじめの一步”を応援します！

市民活動団体が、団体同士や活動をおこなう個人とネットワークを組むことによる、より効果的な活動の展開を応援するため、企画提案を募集します！

- ◆対象となる企画：社会的課題の解決に資するものであり、市町域を越える広域において、継続的なネットワーキングを新たに形成することを目指すものであること。（以前に採択された団体からの同一企画の継続および拡大企画は不可）
- ◆応募者：滋賀県内に活動拠点または事務所を持つ市民活動団体。
- ◆対象：ネットワーキングを目的に活動する団体（市民活動団体、企業等）および個人。
- ◆実施方法：意見交換会、研修会、フォーラムなど、形式や回数は問いません。
- ◆実施時期：2008年10月16日～2009年3月31日に実施する企画
- ◆経費負担：1企画5万円を上限として、淡海ネットワークセンターが負担。
- ◆募集期間：8月20日（水）～9月15日（月）（当日消印有効）
- ※応募方法：詳細につきましては、当センターにお問い合わせいただくかホームページをご覧ください。



▲2007年採択企画「よたネット～滋賀の若い力をつなげよう～」の様子

第7回（2009年）「おうみNPO活動基金助成事業」募集説明会

市民活動やNPOへの社会の理解が広がり、市民が主体的に公益的な活動に取り組むことで、いきいきとした地域社会が形づくられることに大きな期待が寄せられています。

おうみNPO活動基金はNPOの組織基盤を強めたい、経営力を高めたい、他のセクターと協働して地域の課題を解決したい、市民活動を支援したい、そういう想いをもって活動している団体を応援しています。基金の募集説明会を開催しますのでご参加ください。

- 8月23日（土）10：00～11：30
近江八幡市文化会館 会議室2
- 8月23日（土）14：00～15：30

- 県民交流センター（ピアザ淡海）304会議室
8月29日（金）17：30～19：00
米原市米原公民館 研修室3A
8月31日（日）14：30～16：00
高島市立新旭公民館 3-1会議室
9月6日（土）9：30～11：00
草津コミュニティ支援センター
- ※助成申請受付期間
(A)自主事業助成、協働事業助成、NPO活動支援機能助成
2008年9月2日（火）～10月11日（土）17時必着
(B)まち普請事業助成
2008年9月2日（火）～9月20日（土）17時必着

一日体験プログラム 参加者募集！ 市民の手で 調べて、見つけて、まちが変わる！

みんなで、なぜ？どうして？を調べていくと、まちを見る目が変わります。調べたことを伝えていくとまちを少し変える力になります。

車いす利用者のためのタウンマップ、分かりやすい地下鉄案内図など、市民がまちを調べて、伝えることで、誰にでもやさしいまちに変わってきました。

今回、彦根のまちで、市民がまちを調べて、調べたことをまとめて、伝える方法を、実際にまちに出て学び、体験します。

観光で見る彦根とは違ったまちが見えてきますよ！
みなさんをご参加お待ちしております。

- ◆日時：10月5日（日）10：00～16：00
- ◆場所：大学サテライト・プラザ彦根（平和堂彦根6階）
- ◆講師：近藤隆二郎さん（ペロタクシーの運行主体 NPO法人五環生活代表・滋賀県立大学環境科学部準教授）
- ◆定員：25名（先着順）
- ◆参加費：1,000円/1団体（3人まで）
- ◆申込方法：お電話、ファックス、E-mailでお名前、ご住所、連絡先、ご所属をご連絡ください。
- ◆申込先：淡海ネットワークセンター

淡海ネットワークセンター

(財)淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

- 〒520-0801 大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階
- TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442
- http://www.ohmi-net.com ■E-mail:office@ohmi-net.com

開館時間／9：00～17：00 水曜日（祝日以外）9：00～21：00
休館日／月曜日、祝日の翌日、12月29日～1月3日

●淡海ネットワークセンターの情報誌「おうみネット」は次のところに配布しています。
各地域振興局、県民情報室、県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、草津まちづくりセンター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、栗東芸術文化会館さくら、滋賀銀行、びわこ銀行、滋賀県信用組合、公民館など

編集後記

- 人との出会いは、自分を成長させてくれる。今回も、しみじみとそう思いました。“ことば”のハンディを乗り越え、明るく、どこまでも前向きに生きる人々を目の当たりにして、「失われつつある日本がここにある！」との想い。勇気をもらった1日でした。（おうみネットサポーター 荒木威）
- 今回取材して、自分の町がかかえている課題を解決するアイデアをもらえました！今まで、隣町だけれども何をされているのかあまり知りませんでした。この取材を契機に協力して一緒に町を活性化していけたらと思えました。（おうみネットサポーター 団朋希）
- 滋賀と京阪神の架け橋となり、水への思いを共有したいという後藤さんは、時々、自転車で湖岸道路を走行される。身近な川の変化を「診る」視点で観察され、実践へと繋いでおられる。目の前の川が自分化され、「ふるさとの川」になっていく熱い語りから、勇気と元気をいただいた。（おうみネットサポーター 井阪尚司）